

学 年	教科等	主題(教材)名	日 時
第2学年	道徳科	話を聞くときは（ねえ、聞いて）	令和7年6月30日(月)

1 本時のねらい

心を込めて話を聞いてもらおうとよい気持ちになることを理解し、自分も心を込めて話を聞こうとする心情を育てる。

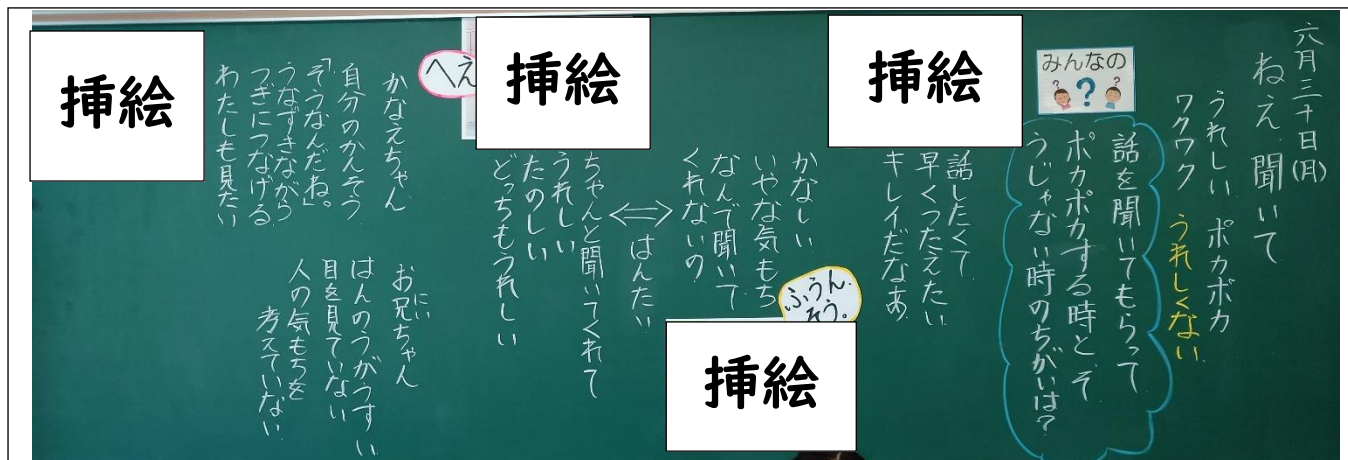
2 指導過程

学習活動及び学習内容（◇は発問）	「自律的に学ぶ」ための手立て		
1 日常生活をふりかえり、主題についての問いをもつ。 ◇ 話を聞いてもらおうとどんな気持ちになりますか？ ・ 嬉しい。 ・ 話してよかった。 等 ○ 問い 話を聞いてもらったのに嬉しくないときがあるのはなぜだろう。 2 問いについて考える。 ○ 主人公のそれぞれの場面での気持ち ◇ カラスアゲハを見つけた場面で、ゆめちゃんはどんなことを思っているでしょう？ ・ 嬉しい。 ・ 誰かに話したい。 等 ◇ お兄ちゃんに話を聞いてもらおう場面で、ゆめちゃんはどんなことを思っているでしょう？ ・ 悲しい。 ・ まだ話したい。 ・ ちゃんと聞いて。 等 ◇ かなえちゃんに話を聞いてもらおう場面で、ゆめちゃんはどんなことを思っているでしょう？ ・ 嬉しい。 ・ もっと話したい。 ・ 聞いてくれてありがとう。 等 ○ 聞き方の違い ◇ お兄ちゃんとかなえちゃんとの聞き方はどのような違いがあるのかな？ <table border="1"> <tr> <td> お兄ちゃん ・ 適当に聞いている（聞いていない） ・ 目を見ていない ・ ちゃんと聞いていない ⇒心が込もっていない </td><td> かなえちゃん ・ しっかりと聞いている ・ 笑顔で聞いている ・ 相手の目を見て ・ 頷きながら ⇒心が込もっている </td></tr> </table> 3 礼儀についての価値観を深める。 ◇ 心を込めてお話を聞いてもらって、どんなことを思いましたか？ ・ 嬉しい。 ・ もっと話したくなった。 等 4 自己の生き方についての考えを深める。 ○ これまでの自分とこれからの自分 ・ これまで私は心を込めて話を聞くことができていなかったことがあったので、これからは心を込めて話を聞くようにしたい。 ・ 心を込めて話を聞くとよい気持ちになることが分かったので、これからは心を込めて話を聞きたい。	お兄ちゃん ・ 適当に聞いている（聞いていない） ・ 目を見ていない ・ ちゃんと聞いていない ⇒心が込もっていない	かなえちゃん ・ しっかりと聞いている ・ 笑顔で聞いている ・ 相手の目を見て ・ 頷きながら ⇒心が込もっている	○ 日常生活において、話を聞いてもらった場面を想起させ、そのときの嬉しい気持ちを共有することで、本時の学びへの見通しをもつことができるようにする。 ○ 適当に話を聞いていて怒られたという教師の体験談を基に、話を聞いてもらっても嬉しくないこともあることに気付かせることで、問いをもつことができるようにする。 ○ 挿絵のゆめちゃんの表情を動作化させることで、ゆめちゃんの思いを捉えることができるようにする。 ○ 話を聞いてもらったのに悲しい気持ちになることがあるという導入の意見にふれさせることで、登場人物の思いと、自分自身を重ねて考えることができるようにする。 ○ 2人の登場人物に話を聞いてもらって思ったことを、対比して考えられるように板書することで、2人の聞き方の違いは何かという次の問いをもつことができるようにする。 ○ ゆめちゃんの気持ちに合わせて挿絵を貼る位置を変える（嬉しいときは上の方に、悲しいときは下の方に）ことで、ゆめちゃんの気持ちを視覚的に捉えらるることができるようにする。 ○ 「お兄ちゃんも聞いてくれているけど、やっぱりかなえちゃんの聞き方が嬉しいの？」と問うことで、話の聞き方の違いについて考えることができるようにする。 ○ 2人の登場人物の聞き方の違いを対比して捉えられるように板書することで、心を込めて聞くとは具体的にどういうことか理解できるようにする。 ○ 抽象的な意見から具体的な意見へと、価値を深めていくような指名を意図的にすることで、心を込めて聞くことが大切だと気付くことができるようにする。 ○ 動作化をとおして感じたことについて、仲間と交流する場を設定することで、心を込めて話を聞いてもらうことのよさを体験的に理解できるようにする。 ○ 導入での教師の体験談を基に、これまでの自分をふりかえる場を設定することで、これからどうするかだけでなく、これまでの自分の姿も見つめたうえでふりかえりができるようにする。 ○ 学習をとおして考えたことやこれからの自分について記述させ、仲間と自由に交流させることで、多様な考え方にふれ、心を込めて相手と接しようとする心情を育むことができるようにする。
お兄ちゃん ・ 適当に聞いている（聞いていない） ・ 目を見ていない ・ ちゃんと聞いていない ⇒心が込もっていない	かなえちゃん ・ しっかりと聞いている ・ 笑顔で聞いている ・ 相手の目を見て ・ 頷きながら ⇒心が込もっている		

3 本時の評価の視点

心を込めて話を聞いてもらおうとよい気持ちになることに気付き、これからは心を込めて話を聞こうとする思いを高めている。
【道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりのなかで深めているか】

4 板書



5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 大竹 進太郎 指導主事

- 道徳性を構成する諸様相には、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度があるが、本時ではどこをねらいとしているか明確にする必要がある。そのうえで、ねらいを達成するための手立てや授業構成を考えていくとよい。
- 導入の段階に、自分事としてふりかえる手段として、教師の体験談を話していたが、これまでの自分の経験をふりかえらせてもよかったのではないかな。
- 展開の段階でお兄ちゃんの聞き方について考える時間があったが、お兄ちゃんも聞いていなかったわけではなく、「もしかしたら、聞いたかったけど聞けなかったのかもしれない。」という考えを引き出すことで、人間理解を深めることもできたと考える。
- 展開後段に、心を込めて話を聞いてもらおうという活動を取り入れたが、心を込めて話を聞いている姿を価値付ける時間もあると、さらに子どもの心情の深まりもあったのではないかな。
- 自分事として問いをもたせたり、物事を多面的・多角的に考えさせたりするために、役割演技等の様々な手立てを講じることは大切だが、その授業で身に付けさせたいことを明確にすることが何より大切である。

6 考察

【研究内容1：子どもが「問い」をもつための手立て】

今回の授業では、教師の体験談を基に、本時の問いをもつことができるような導入にしたが、自分事として捉えることができていない子どももいた。子どもが問いを自分事として捉えることができるようにするために、これまでの自分の経験をふりかえり、子どもが自分の経験から疑問をもち、その疑問から問いをもつことができるような導入の工夫が必要であると感じた。

【研究内容2：子ども一人一人が納得解をもち、自己の生き方についての考えを深める手立て】

今回の授業では、心を込めて話を聞いてもらおうという動作化を行うことで、「話を聞いてもらおうと嬉しい気持ちになる」ことを、体験をとおして理解する姿が見られた。終末の段階で「自分自身も相手が嬉しい気持ちになるような聞き方をこれから意識していきたい。」という感想をもつなど、自己の生き方についての考えを深める子どもの姿も見られた。

また、展開前段の主人公の気持ちを考える場面においても、主人公の表情の動作化によって気持ちを想像しやすくなるなど、考えを深めるために動作化が有効であることが分かった。今後も積極的に取り入れていきたいと考える。

指導講評にもあるように、子どものふりかえりで終わるのではなく、授業のなかで本時のねらいとする価値が深まったと感じられる子どもの姿を、教師が価値付けるような働きかけを行うとよいと考える。そうすることで、さらに子どもの考えが強化されたり、新たな気づきが生まれたりし、ねらいとする価値に対する考えがより深まるのではないかと考えられる。